

令和5年度 第2回 上山市いじめ問題専門委員会 要旨

日時 令和6年2月28日（火）午後7時00分～

場所 上山市役所 401会議室

1 開会

2 上山市教育委員会あいさつ

3 報告（座長 委員長）

（1）令和5年度のいじめに関する取組及び調査結果について

・別紙参照

【質疑応答等】

- 児童会活動の具体的な取り組み、SOSの出し方研修の内容を教えてください。それは、全小学校で取り組んでいるのか。

【回答】いじめをなくす運動に取り組んだという報告あり。お便りや全校集会での呼びかけをして意識を高めている。全ての学校で。SOSの出し方研修は、2つの小学校で実施。健康推進課の保健師と指導主事が出向き、困った時には大人を頼ることについて話した。また、県の自殺対策事業と併せたSOSの出し方研修を南中学校で実施。

- 全小学校でやっているのは特筆すべき。上山でも児童を中心としたいじめ対策を。自主的な対策ができるような環境づくりや提案を続けてもらいたい。

- 新型コロナに関するいじめでは、どのような取り組みをしているのか。

【回答】道徳や特別活動で人権意識を育てることで、コロナに対する差別意識をなくす。保護者向けにも差別や偏見について文書等を配布し、家庭で話す機会をつくる。

- コロナに限らず病気の子どもに対する対応の仕方についての考えはあるか。

【回答】ゆきわり養護学校さんとは上山小学校が交流している。その中で病気についても理解する。地道に続けることで多様性を学ぶ機会にもなる。

- ソーシャルスキルの未熟さというのは具体的にどういうことなのか。

【回答】どういう言葉で関係性が築けるか、この言葉を相手がどう受け取るかを考えてから発することができない。授業の中でも話し合うことができない期間があったので、体験的に味わう時間が乏しかった。あえてソーシャルスキルトレーニングを入れて補っている。

- 小学校レベルのソーシャルスキルが出来ていない。少人数であっても基礎から積み重ねていく意識が必要。
- 差別・偏見がいじめの根底。みんなが社会の構成員の一人だという認識、多様性を認める意識を小学生から教育していかなければならない。

(2) 令和5年度いじめ重大事態の報告について

- ・別紙参照

【質疑応答等】個人情報に関する部分なので、以下議事録不開示

4 協議（座長 委員長）

(1) 令和6年度のいじめ防止対策の取組案について

- ・別紙参照

【質疑応答等】特になし。

5 連絡

- ・事務局より、委員の任期について確認（令和7年3月31日まで）

6 閉会